



都市と地域の人をつなぐ

里都(さと)プロジェクト

第二回・里都づくりフォーラム開催レポート

【開催日:2012年2月20日(月)】

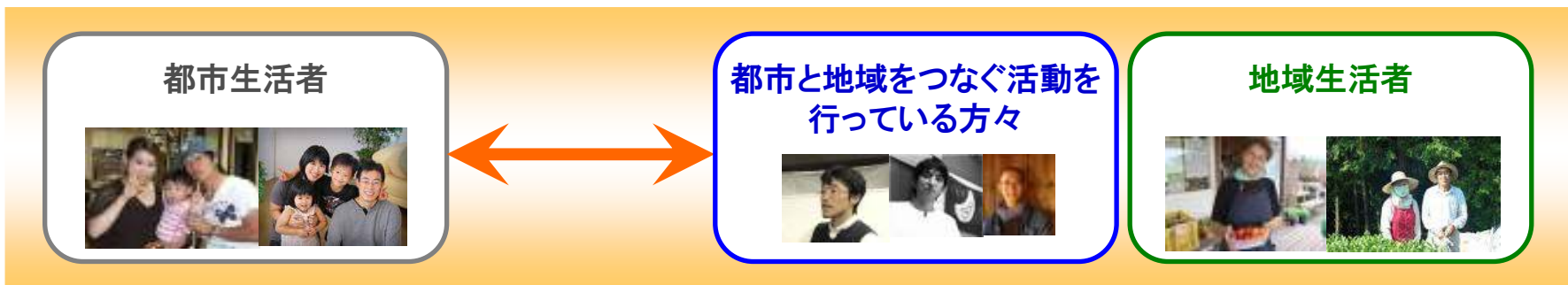
都市と地域の人をつなぐ
里都プロジェクト

「里都(さと)プロジェクト」について

里都(さと)プロジェクトとは、
「都市」と「地域」との新しいつながり方・関わり方を、実践から学び、考えていくプロジェクトです。

「持続可能な幸せを感じる社会づくり」、重要なキーワードだと思います。
この新しい社会づくりのためには、「都市」と「地域」との新しい関係性を模索し、先行事例に学び、育んでいくことが重要ではないかと考えています。

そこで里都(さと)プロジェクトでは、
「様々な地域で、都市と地域をつなぐ活動を行っている方々」と、
「都市に住み、地域との縁をつくりたいと考える方々」との出会いの場をつくり、
お互いが学びあい、双方にとって新しい関係性を培うきっかけづくりに取り組んでいきたいと考えています。



【里都プロジェクト】

- ・コアメンバー: 大木浩士、有福英幸、濱谷玲子
- ・主な活動内容: ネットワークづくりフォーラムの企画運営、WEBサイト等による情報発信、地域体験ツアーの企画運営、など
- ・WEBサイト: <http://www.satopro.jp/>
- ・お問い合わせメールアドレス: info@satopro.jp

第2回・里都づくりフォーラム 開催概要

■タイトル: 第二回・里都づくりフォーラム

■ゲスト: 佐野淳也さん(静岡県富士宮市)

■開催日時: 2012年2月20日(月) 19:00~21:30ごろ (開場 18:30)

■開催場所: 赤坂パークビル会議室 (住所:東京都渋谷区笹塚2-42-17 秋元ビル2F)

■参加者: 30名 (定員40名、参加申込みは40名)

■本日のプログラム内容

- 佐野さんから、木の花ファミリーが目指しているものや取り組みの内容についてのお話
- 木の花ファミリーの取り組みから学べることについて意見交換
- 里都プロジェクトスタッフの木の花ファミリー訪問報告



=====
「地球サミット2012Japan」副代表
「エコビレッジ・ジャパン・ネットワーク」運営委員
「Global Ecovillage Network Oceania & Asia」理事
=====

1971年徳島市生まれ。

東京学芸大学環境学習研究員など経て、2008年から2011年にかけて立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授として勤務。

また、東京・池袋を拠点に「都市農山漁村交流しごと塾」を主宰し、ワールドカフェをはじめとした様々な対話と交流の場づくりを行った。

現在は、富士山の麓の農的エコビレッジ「木の花ファミリー」にて、77名の大家族とともに暮らす。担当はエコビレッジ教育・出版・研究。

オープニング

参加者は30名。冒頭、「里都プロジェクト」発起人の大木から、メンバー紹介と「プロジェクト設立の背景」「里都プロジェクトが目指すこと」などをお話させていただきました。



里都ナビゲーター：佐野淳也さんからのお話

第2回フォーラムのゲスト(里都ナビゲーター)の佐野淳也さんより、木の花ファミリーの概要や取り組みの内容についてお話をいただきました。



里都ナビゲーター：佐野淳也さんからのお話

- ・出身は徳島市です。大学を卒業した後に阪神大震災が起き、神戸で1年間被災地支援の活動を行っていました。その後、環境NGOや国際協力機関などで働き、さらに大学で研究を行ったり教員として働いていたこともありました。
- ・「木の花ファミリー」のことを知ったのは、東京学芸大学で環境教育の研究員の仕事をしていたときです。訪問し、移住したいと思いましたが、その思いがなかったのは3年後でした。
- ・「木の花ファミリー」は世界的にみても、あまり例のないコミュニティだと思います。
- ・「木の花ファミリー」は一つの家族です。現在のメンバー数は77名です。ここ5年は、毎年5～10名くらいのペースで増えています。
- ・このコミュニティができたのは1994年。場所は静岡県富士宮市です。創立時は20名でスタートしました。当時は「木の花農園」と呼ばれていました。
- ・富士山には「木花咲耶姫(このはなのさくやひめ)」という神様が祀られています。「木の花」の名前はこの神様からいただいたものです。
- ・現在77名が「血縁をこえた家族」ということで共同の生活をしています。男性は29名、女性は48名。大人は54名、子供は23名です。
- ・77名は6つの家に分かれて住んでいます。家と家の間は、互いに車で5分くらいに距離にあります。
- ・以前、木の花ファミリーは任意組織として活動していましたが、昨年「農事組合法人」という法人格を持つことになりました。
- ・木の花ファミリーは、「得られた収入を大人全員で平等に分配する」という経済システムを導入しています。主な収入は農産物の販売によって得られています。それらを働きぶりなど関係なく、平等に分配しているのです。
- ・1人当たりの配分額は年間50万前後です。これがメンバー1人あたりの年間所得になります。
- ・木の花ファミリーで暮らしていると、生活のために必要なお金は、年間24万円くらいです。子供の養育費もここから出しています。
- ・所属メンバーは各自の得意分野を活かし役割を担っています。農業、加工品生産、家事、子育て、芸術活動、IT関連など様々な仕事をしています。農業主体のコミュニティなので、農業(畑、田んぼ)関連の担当者が多いです。
- ・木の花ファミリーでは免許を取って旅館業も営んでいるので、訪問する方をお泊めすることもできます。日帰りも含めると、年間2000人くらいの方がいらっやいます。1泊3食で5000円です。
- ・子育てがユニークです。血縁にこだわらない子育てを行い、「みんなが親、みんなの子供」という考え方をもっています。コミュニティができてから18年がたちます。大学院に通っている子が一名、独立して美容師になった子が1名います。進学費用はみんなでお金を出し合って学費をつくります。コミュニティ全体で子供の進路をサポートするという考え方です。
- ・農業は無農薬有機栽培で行っています。たくさんの野菜を作っています。野菜は88品目(217品種)、お米は11品種作っています。面積は、畑8ha、田んぼ8haです。田んぼは100枚くらいの枚数があります。基本的に地主さんから無償でお借りしています。
- ・外部からお手伝いこられる農業ヘルパーさんもいらっやいます。もし皆さまにヘルパーで来ていただけるなら心から歓迎いたします。食事と宿泊場所を無償で提供させていただいています。
- ・田んぼや畑に農薬を使いません。土壌の微生物を大切に、食べ物を口にする方のことを考えているからです。
- ・土づくりのため、「ぼかし(微生物)」をまいています。「EM」をベースとして独自培養した菌「木の花菌」を使っています。
- ・屋外にはコンポストトイレもあります。材料を買ってきて自分たちで作りました。費用は8万円ほどでした。

里都ナビゲーター：佐野淳也さんからのお話

- ・木の花ファミリーでは、油、塩、砂糖を除くほとんどの食べ物を自給しています。味噌と醤油も伝統製法で自給しています。食事はみな旬のメニューです。
 - ・木の花ファミリーではお肉は食べません。理由は環境問題と水・食料問題への配慮からです。食べるお肉を作るため、大量の水と牧草が必要になります。できるだけ環境負荷が低い食べ物を選びたいとの思いがあります。また精神性を高めるために菜食の方がよいとの考えもあります。
 - ・近隣の方や団体から依頼され、お弁当をつくることもあります。
 - ・お菓子も作っています。とても美味しいです。木の花ファミリーでは毎日16:00におやつタイムがあります。
- ・木の花ファミリーは「精神的な部分で自分を高めたい」と思った人が作ったコミュニティです。環境に配慮したエコビレッジとして知られていますが、例えばインドのアシュラムのように日々こころの修行を行っている場所でもあります。それがこのコミュニティの大変ユニークな部分です。
- ・木の花ファミリーには有名なモットーがあります。「畑を耕す前に、心を耕せ」です。「心ができていないと、よい農業はできないよ。まずは自分の心を見つめて、成長させていこう」、そんなことを基本的な考え方として持っています。
 - ・「自分のモノの見方や考え方の癖」をメンバー内で語り合うことは日常的に行われます。
 - ・木の花ファミリーでは特定の宗派宗教を持っていません。中には特定の宗教に入っている方もいますが、多くの方が「自然」をベースとした価値観を共有しています。「自然から学ぼう」という考え方です。
 - ・自然を見ると、花や動物など様々な個性があり、それらが溶け合って全体として調和しています。木の花ファミリーも「各メンバーの個性を大切にしながら全体の調和をつくっていこう」との考え方を持っています。
 - ・木の花ファミリーには明文化されたルールがほとんどありません。何か問題が生じたときには、メンバーで対話を行い、個の思いと全体の調和を考え、その都度対応を図るようにしています。
 - ・木の花ファミリーでは「大人ミーティング」というものを18年間毎日行っています。20:30くらいから始まり、2時間から3時間、時には4時間くらい行っています。
 - ・内容は「作業報告」や「人の配置調整」などに加え、それぞれのメンバーの「心の課題」について語り合い、みんなでそこから学びながら、コミュニティ全体で解決を図っていきます。
 - ・エコビレッジや家族的なコミュニティが世界中で作られていますが、その多くが数年で行き詰り解散するケースが多いと言われています。その大きな原因は人間関係です。木の花ファミリーでは徹底した話し合いを行うことによって、調和的な人間関係をつくり続けています。
 - ・問題が生じたら、まず当事者間で話し合い、場合によっては第三者からも意見をもらい、それでも解決しない場合には「大人ミーティング」で全体共有と原因の検証を行います。
 - ・何か問題が生じる際、そこには原因があります。その原因を探っていくことで様々な気づきもたらされます。問題ごととは気づきをくれる。だから問題ごとを隠さずに皆で乗り越えていこう、学びあっていこうと考えています。
- ・このようなコミュニティは閉鎖的なのではないか、と言われることも多いのですが、木の花ファミリーは外部の方々との接点も多くあります。例えば有機農業研究会への参加、大学との連携、地元のNPOとの連携など様々な取り組みを行ってきました。
- ・木の花ファミリーの暮らしを1泊2日で体験できるツアーを毎月行っています。もし興味がありましたら木の花ファミリーのホームページで内容をご確認いただきお申し込みください。

参加者同士の対話

各テーブルごとに自己紹介を行っていただき、「佐野さんのお話を聞いて印象に残ったこと」などについて対話していただく時間を設けました。



里都プロスタッフより「木の花ファミリー」の訪問報告

2012年2月13日(月)に、里都プロジェクトスタッフが静岡県富士宮市の「木の花ファミリー」さんに訪問いたしました。その時の感想をスタッフの有福さんから共有させていただきました。



木の花ファミリーの取り組みについて質問

里都プロジェクトスタッフや参加者の皆さまより、木の花ファミリーさんの取り組み等について佐野さんに質問をさせていただきました。



■【質問】 これまで様々な土地を歩かれた佐野さんは、なぜ木の花ファミリーを選んだのでしょうか？

自分の意思を越え、「ご縁」でそうなったという部分が大きいです。3月11日以降、何度か被災地に行きました。その際「文明全体の転換が必要」とのメッセージを感じました。木の花ファミリーは新しいコミュニティのあり方や世界観を探求しています。このようなコミュニティに自分も入って探求したいとの思いがありました。

■【質問】 持続可能なコミュニティとして、「コレクティブハウス」や「トランジションタウン」など様々な形態があると思います。これらと木の花ファミリーのようなエコビレッジとの違いを教えてください。

私はエコビレッジについて「命が生き生きつながっていく共同体」という定義をしています。この定義で考えれば「会社」もエコビレッジになれる可能性があると感じています。コレクティブハウスは「住む人同士の間関係づくりに配慮した集合住宅」です。住人同士で話し合う時間が定期的に設けられています。都市型のエコビレッジと考えることもできるかも知れません。トランジションタウンは「『脱石油』を目指した活動を行う地域コミュニティ」、そんな特徴を持つコミュニティだと思います。

■【質問】 木の花ファミリーでは、近すぎる人間関係をどのようにマネジメントしているのでしょうか？

簡単に答えるのが難しいです。マズローは欲求段階説を提唱しました。コミュニティは人間が抱く様々な欲求を満たす場所だと思います。人が物質的な欲求を満たそうと思うと、多くの資源が必要となります。木の花ファミリーは、必要最小限の資源で最大限の精神的な欲求を満たそうとしている場所なのではないかと思います。また個人が抱く「自我の調整」のようなことも大切なことかも知れません。肥大した自我(我欲)は人やコミュニティを減ぼします。そうならないために調整する機能を木の花ファミリーではこれまで独自で築きあげてきています。



木の花ファミリーの取り組みについて質問

■【質問】 木の花ファミリーのメンバー同士が強い信頼関係を築けているその背景を教えてください。

木の花ファミリーには標語があります。「正直、素直、信じる」です。これに「いただく」という考え方が加わります。あらゆることは良いことのためにつながっている。何か嫌なことがあったり問題が起こったとしても、それは良くなるために気づかせてくれるもの、現在その人がまたはコミュニティが越えていくべきハードルを示してくれている。誰か嫌な人がいたとしても、その人の存在を通して自分の心の成長の機会をいただいている、そんなことを考えています。ですから軋轢を大切にします。隠すことなく逃げることなく向き合う。そのようなものをコミュニティの中心的思想としていることが理由かも知れません。そしてこれを実践できる人が残り、実践できない人は去っていくということがこれまで実際にありました。

■【質問】 以前うかがった際、「いさどん(古田偉佐美)さん」がコミュニティの心の支えになっているのかなと感じました。もし「いさどんさん」がいなくなった後にどうなるのか、ご意見をお聞かせください。

古田さんは木の花ファミリーの創設者です。実際彼は精神的な支柱でした。彼が60歳になったとき、「いつまでも自分が中心でやっていくのは限界がある」ということで生前葬をしました。その後他の方にリーダーシップを分散させていきました。みんな、はじめは慣れずに苦労しました。現在もがんばっているところです。

■【質問】 私は「濃い家族は自分の家族だけでいい」と思ってしまう。皆さんは本音でどのように感じているのでしょうか？

共同の生活を送ることに對し、向き不向きはあるかも知れません。木の花ファミリーのメンバーには「精神性の探求をしたい」という思いが強くあります。大勢で一緒にいるとストレスが発生します。そのストレスから浮き上がってくる自分の不要なエゴを取り除いていくことを日々行っています。マズローは晩年、「自己実現」の先に「自己超越」の欲求があると唱えました。集団の生活を通して「自己」を越えていきたいとの思いがメンバーに共通してあり、だからこそこうした血縁を超えた、いわば「魂の家族」にみんなが参加しています。

■【質問】 コミュニティからの「独立志向」を持った方ができた場合はどうされるのですか？

これまでは、いちどファミリーのメンバーになったら、一生涯ここでみんなと一緒に暮らすということが大事にされてきました。今後はもしかしたら外に出て活動を始めるメンバーも現れ、コミュニティと緩やかにつながっていくようなことが出てくる可能性があります。たとえば、各地でエコビレッジを立ち上げる際に、木の花ファミリーメンバーがその起ち上げメンバーとして派遣されたり、移住するといったこともありえると思います。

■【質問】 木の花ファミリーさんが18年前に現在のところに入られた際、地域の方々とのトラブルは何かありましたか？

トラブルはありませんでしたが、当時は結構地域から怪しまれたそうです。当時は若い人が農業することがほとんどありませんでしたし、オウム真理教がニュースになっていた時期でした。現在は「あの人たちは少し変わっているけど、真面目に農業している人たち」と思っていただけのようなのです。また、農地を貸していただいている地主さんとの付き合いや、私達のお米・野菜を宅配させていただいている富士宮市・富士市の一般のお客さんとのお付き合いもあります。これから地域の方々との理解もさらに深まっていけばいいなと思っています。

本日の感想の共有

席替えを行い、各テーブルごとに本日の感想の共有を行っていただきました。
参加者同士が気づきを共有しつながらを作る、とても大切な時間になりました。

